

第6回葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会

日時：令和5年2月10日（金） 15:00～16:30

場所：男女平等推進センター1F 洋室D

出席：佐野委員長、谷澤委員、矢部委員、吉田委員、杉本委員、泉山(省)委員

(WEB参加：加藤副委員長、郷田委員、轟委員、阿部委員、泉山(墨)委員、中村委員)

(欠席：青木委員)

事務局：都市計画課 目黒課長、原田係長、山本、兵頭

傍聴：2名

議事：

開会

委員長：ただいまから、第6回葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会を開会します。最初に事務局より連絡事項があればお願いします。

事務局：はじめに、委員の出席状況について、委員の過半数の出席という定足数を満たしていることを報告します。配布資料に不足がある場合はお申し出ください。

(目黒課長 事務連絡、リモート参加委員の紹介、傍聴者2名の入室)

1 議事

(1) 報告事項

- ・第5回策定委員会における主な意見について（資料3）
- ・震災復興まちづくり方針図の更新について（資料4）
- ・都市計画マスタープラン素案（案）について（資料5）

(目黒課長 資料1～5を説明)

■質疑応答

委員長：資料4では、今年度更新・公表された地震に関する地域危険度や被害想定、また、来年度更新される見込みの土地利用現況を踏まえ、第1回の策定委員会で懸案事項とされていた、「関連情報が少し古い」という課題をクリアする形で、震災復興まちづくり方針図の更新版について報告がありました。更新された情報を見ますと、全体的には震災時の想定被害が減少する傾向にあります。このことは、これまでのまちづくりの取組の効果が表れているのであろうと推測されます。

また、資料5では、前回検討した全体構想と地域別構想をセットにした都市マス素案の案について、各委員のご意見の反映状況や、これまで別々に検討されていた全体構想と地域別構想のつながり、関係性といったものについて説明がありました。

資料2のスケジュールによると、この都市マス素案の案については、並行して東京都並びに葛飾区役所の全部局を対象に意見照会を進めているということですので、次回は本日の意見とそれらの意見照会を反映する形で、パブコメに向けた都市マス素案を取りまとめていくこととなります。そういった順序がありますので、本策定委員会での主要な調整は本日が最終段階であると考えています。前回の意見の反映状況はもちろん、都市マス全体を俯瞰しつつ、いま一度、位置付けが必要な事項がないか、全体と地域との記述のバランスがとれているかなど、本日、できる限りご確認いただければと思

います。

それでは、資料4、資料5について、ご意見があればお願いします。

委員：この後、途中退室しますので、先に話をさせていただければと思います。内容は本当によくまとまっていると思います。1点だけ、p. 63 から市街地整備の方針ということで、①の a からウォークブルなどの話のところまで、幾つか項目があります。その内容と、前のほうの p. 19 にまちづくりの主要課題としての「市街地整備」という項目がありますが、ここが、方針の話と課題の対応関係がもう少し分かると、分かりやすいのではないかと思います。印象的には、再開発とエリアマネジメントという言葉が割と書かれていますが、方針のほうでは、もう少しいろいろなことが書いてある印象ですので、その辺の対応関係が分かるとより良いのではないかと思います。コメントは以上です。

委員長：今のご意見について、事務局から何かありますか。

事務局（課長）：確か以前、他の委員の方からも、そういった方針と課題の対応関係が分かるようにしたほうが良いということで、市街地整備の方針 p. 63 の一番上に、指しマークで p. 19 を参照することとして、主要課題のこちらの課題になるということを示させていただいています。p. 19、p. 20 については、今の葛飾区の現状として、どうしても再開発事業であったり、そういったハード整備が中心になっている状況は否めないところもあります。また、エリアマネジメントはこれからの検討という形になっているので、確かに p. 63 以降の市街整備の方針に対して少し足りないところがあるかもしれませんが、今後のまちづくりの中で、例えば環境への配慮であったり、そういったところを少しずつやっていくのかなというところで、今、事務局としては考えています。

委員長：委員、いかがでしょうか。

委員：現状の葛飾区の課題としてはそうかもしれませんが、例えば環境などは社会情勢の変化や新たなニーズへの対応といったこともあるのではないかと思いますので、現状追認だけでなく、新しいテーマに取り組むというところもまとめると、p. 61 以降のところの関連ももう少し強くなるのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

事務局（課長）：その点についても、確か、他の委員から同じようなご意見がもともとありました。p. 45、p. 46 でも、まちづくりを進めるにあたって、様々な社会情勢やテーマなどを考慮していかなければいけないというところで、今、気候変動対策、環境対策、そのほかにも DX であったり、健康増進のようなどころも含めて、当然配慮しながら進めていかなければいけないと区の方としても考えていますので、こちらのよう形で全体的にまとめて書かせていただいています。

委員長：よろしいでしょうか。ほかにご意見はありますか。委員、お願いします。

委員：全体的に大変よく、皆さんが話していた指摘ポイントについて整理されていると思いました。それで、葛飾らしさというか、下町らしさというか、その辺の写真を入れておいたほうが良いのではないかと。p. 125 だったと思いますが、地域別の話の柴又エリアの話のところ、柴又辺りの写真が入っていてもいいのではないのでしょうか。ほかの地域については、つくっていきたい風景のイメージの写真が幾つか入っていますが、柴又についてはその辺がないので、何かその辺があってもいいのではないかという気がしました。p. 117 の辺りの各エリアのイメージ写真には柴又が入っていますが、ほかの地域についてはそれぞれのところでもイメージの写真が入っています。柴又辺りも p. 125 からのどこかに入れておいてもいいのではないかという気がしました。

委員長：事務局、いかがでしょうか。

事務局（課長）：p. 125 以降の柴又・高砂地域のところについては、柴又のまちを俯瞰した写真を、柴又

の文化的景観の整備計画から抜粋して、p. 128 に入れています。ただ、多分、皆さまが思い描くような、柴又のイメージを想起させるようなものではなかったもので、恐らくそういったご意見が出たのではないかと思います。今後、この写真についても検討させていただいて、皆さまが柴又をすぐそばでイメージできるような写真の差し込みを少し考えていきたいと思っています。

委員：やはりアイレベルで見ないと、そのイメージが伝わりにくいところです。景観計画の国交省のガイドブックなどでも、伊勢神宮の所の内宮前の門前町の写真などはすごくインパクトがあつて、あそこならではの風景という感じがするので、ぜひアイレベルの写真を検討してみたいかと思いました。

委員長：委員の皆さま、ほかにないでしょうか。委員。

委員：全般的には、私の意見も含め、委員の皆さんからの意見に適切に対応いただいたと思いました。それで、私が改めて見てみると、細かい話で大変恐縮ですが、p. 74 の a. 南北方向鉄道網の文章の新金線のところの中にある検討委員会や幹事会、私はメンバーなのでやはり気になってしまうのですが、この、新金線については、というポツの、沿線地域をはじめとする区内全体の活性化、これは区内全体の何の活性化なのかを書いてほしいところです。私は移動の活性化がいいかなと思って読んでいました…移動あるいはモビリティの活性化かなと思っています。ここは文言の話なので、ご検討いただければと思います。また、追加いただいた青いところの一番下からの、周辺も含む地域の利便性を高めるなど、ここが、意味が伝わりにくいかと思います。これは不要ではないかと思ったので、ここはご検討いただければと思います。ここは文言の話ですが、ここの文章のところになりました。

もう1つ、そこにも新小岩駅周辺の拠点性を高めるとありますが、この間、ビッグニュースが出て、スタジアムを新小岩の所に造る、ということがメディア報道されていましたが、これについては、ここでというよりは後ろのほうの地域別のところ、p. 143 の奥戸・新小岩地域の中に書く必要があるかどうかというのが気になっています。さらに、地図をずっと眺めると、今はそこに何もないので、これが今後大きなビックプロジェクトとして動いていくとなると、あつたほうがいいのではないかと思います。p. 145 の市街地整備か土地利用の中でもそういったものがどこかに一言あつてもいいのではないかと思います。そのこのところの区のお考えをお聞かせいただければと思います。以上、2点です。

委員長：では、事務局からお願いします。

事務局（課長）：まず p. 74、区内全体の活性化を図るためには、何の活性化かというところをはっきりと、ということでした。移動やモビリティなどの活性化と言うほうが適切ではないかということでありましたが、事務局のほうでのこの記載の思いとしては、当然それもそうですが、それによってさらに沿線地域も便利になり活性化をしていくということもあるのではないかと思います。特に、〇〇の、というふうには書かずに、区内全体の活性化というところまでとどめさせていただいています。また、中間駅では地域のニーズを踏まえ、というところの、周辺も含む地域の利便性を高めるも、駅だけではなくその周辺、駅ができればそこに人が集まり、そこにまた様々な生活利便施設もできてくると思いますので、そういった意味で、駅周辺も含めた利便性を高めていくという思いで書かせていただきました。少し伝わりにくい部分があつたかもしれないと思いますので、ここの部分ももう少し文章の精査をしたほうがいいかなと感じています。

それから、スタジアムの件について、新小岩駅の東側になりますが、私学共済の施設について、つい先日、スタジアムの構想を公表しました。その件については、都市計画公園として今後決定をして

いくというところがまず1点目にあります。それを受けて、都市マスのほうでも公園の整備のところ
でそのような記載をしていかなければならないと考えていますし、また、p. 62、土地利用方針図にも、
土地利用誘導・検討地域として印をつけていきたいと考えています。公園の関係でいくと、p. 83、魅
力ある公園の整備の、特に、特色ある公園の整備のところ、そういった記載をしていければと考
えています。また、先ほど委員からお話がありました、p. 144、整備方針図にもそういった位置付け、図
への落とし込みであったり、また、p. 145、p. 146の整備方針の中にもその点について記載してい
きたいと考えています。また、先月公表されたばかりの話ですので、窓口になっている企画課と調整を
図り、記載させていただき、次の会議ではご覧いただけるようにしたいと考えています。

委員長：委員、何かありますか。

委員：1点目は、私の解釈がうまくできてないかもしれないので、ご検討いただければと思います。

2点目は、分かりました。まだオープンになったばかりで、多分、市内でもしっかりと連携がとり
きれていないのかなと思いつつ聞いていました。おっしゃるとおり、確かに、その地域別だけ
ではなく、いろいろなところに関わるものかなと思いますし、ニュースで見ると限らず、区内だけの話
ではなくて、東京あるいは首都圏、あるいは日本全国から人が来るようなことを狙っているような
ところも見えるので、本当にしっかりと位置付けがあったほうが良いと思いつついたので、いろいろ
なところでの追記をご検討いただければと思います。よろしくお願ひします。

委員長：ほかにないでしょうか。委員、お願ひします。

委員：皆さんの意見を反映して丁寧に修正をしていただき、お礼申し上げます。総じてとても分かり
やすくなったという感想を持っていますが、直していただいたところで、幾つか申し上げます。

まず、p. 29からp. 34までの、特にp. 33、p. 34の、理想像をかなりビジュアルライゼーションした
というか、絵で示したところですが、非常に大事なところが先に出ていて、後ろにその他もろもろが
出ているのが、後ろの一番最後のページが独り歩きするのが大丈夫かなと心配させていただいて、非
常によく分かりやすくなって、特にp. 33の上にもちづくりの5つの目標を入れていただいたのは、
とてもいいことではないかと思いつつ。それで、このページだけを見ても全てが分かるような形に
なっていて、とてもいいと思うのですが、ただ、少し細かい話で、5つの目標の字体が弱いような
気がしました。あまり目立たないな、と思いつつので、もう少し強調していただいたほうが、誤
解がないのではないかと思いつつ。それが1点です。

それから、これは質問ですが、(1)、(2)それぞれの、特にp. 30でいいかと思いつつ、右側に
警戒レベル、危険度が矢印で表示されていますが、これは凡例や説明はどこかに出ているので
しょうか。というのは、意味が少し分かりにくいのではないかと。唐突に出てきてないかという
質問です。

委員長：ほかにありますか。取りあえず、今のところよろしいでしょうか。

委員：では、まとめて少しお話をさせていただきますと、あと2点ほどあります。

p. 68のところ、先ほどウォークブルの話がありましたが、写真が載っていて、居心地がよく歩
きたくなるまち、ウォークブルなまちということで、ポツ4つで整理されていて、これは非常に
分かりやすくなったと思いつつ見ていました。それで、一番下に4ポツの内容として絵が記載
されていますが、やはり1ポツ目にあるように、下町らしい風情に配慮した空間形成とか、
そういうところのものがイメージとして少し伝わりにくいかなと。写真などが
ないので、分かりにくいかなと思いつつ。だからここに写真を増やしてくれ
という意味ではなく、先ほど委員からご意見があったように、例えば地域別
構想の中の、柴又の文化的な景観とか、そういうところで下町らしい風情のある
写真みたいなもの

をどこかで出していただくほうがいいのではないかと、私も思いました。それが2つ目の意見です。

最後はp.96で、これも細かい話ですが、震災復興まちづくり方針図の、今日、資料4で新しいバージョンのものもご紹介いただきましたが、この凡例、拠点整備型復興地区から一番上の基盤整備型復興地区まで5色で塗り分けられていますが、ご説明いただいているときも、赤いほうがより整備が必要で、寒色のほう、青いほうは整備のレベルはそれほど……赤いほうが重要という話だと思いましたが、赤いのが、一番上がピンクで、その次が赤くなっている…これは、もし程度を示すとしたら逆ということはないでしょうか。何か理由があるだろうと推察して、その辺のことについて、どうしてこうなっているのかをお尋ねしたいところです。お答えいただける部分が多分にあるかと思えます。私からの意見は以上です。

委員長：では、事務局から順を追ってお願いします。

事務局（課長）：まず、1点目が、p.33、p.34の理想像の左上にある目標5つということで、文字が薄いのではないか、もう少し強調したほうがいいのではないかということなので、ここは調整していきたいと思えます。

もう1点が、p.30の警戒レベルですが、これについては大雨警戒レベル、こちらで出しているほかの警戒レベルの色使いを参考にさせてもらっています。ただ、同じものということではないので、あえて説明はしなかったですが、上にいけばいくほど高いレベルであることさえ伝わればよいというところで、これを出させてもらっていました。もう少し説明書きが必要かどうかというところは、事務局でも少し検討してみたいと思えます。凡例や説明があったほうが確かに分かりやすいと思えますが、色が濃くなって、一番上が、一番危険レベルが高いということが伝わればよいかなという凡例となっています。

p.68の写真について、4ポツ目についての写真は4枚あるが、一番上の密集市街地等の路地空間の写真がないので、地域別構想に入れてみてはどうかというお話でした。こちらについては、そういった路地空間が多くあるような、四つ木の地域であったり、堀切の地域であったり、こういった地域の中でのイメージするような写真として、良い写真があるかどうか、というのがありますが、探して掲載していければと考えています。

最後に、p.96の凡例について、この凡例自体は、色が赤いほうが復興として様々やっていかなければいけないというものではなく、一番上のピンクと赤は、基本的には同じ内容ですが、赤い凡例のほうは高台整備をしていくという、その違いを出しています。説明は以上です。

委員長：委員、いかがでしょうか。

委員：よく分かりました。特に最後のほうは、危険度レベルなどでは、大抵、ピンクから赤にいくので、そういうものと誤解が生じないかと思いましたが、これはそういうレベルを示すものではないということであれば、これで結構かと思えます。

あとは、先ほど、路地空間の、と申し上げたのは、新たにというよりは、柴又など、そういう所の下町らしい、いわゆる文化的な景観が、葛飾区にとっては結構重要だと思うので、先ほどの柴又のところなどにそういう写真が入れば、それで十分ではないかと思いました。以上です。

委員長：ほかにないでしょうか。よろしいでしょうか。

(意見なし)

委員長：それでは、資料4及び資料5については、取りあえず以上とさせていただきます。

それでは、今回出た意見と、東京都などへの意見照会を踏まえて、次回の第7回では都市マス素案の取りまとめをしていきたいと思っています。

続いて、参考資料1としてご用意いただいている、都市マスの表紙のデザインについて、事務局より説明をお願いします。

・都市マス表紙のデザインについて（参考資料1）

（目黒課長 参考資料1を説明）

■質疑応答

委員長：参考資料1の、都市マスの表紙のデザインについて、基本的には事務局にお任せすることになるかとは思いますが、今、課長からも話があったように、こういうイラストを入れたらいいなど、各委員、何か意見があればお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。

委員：今、お話いただいたように、基本的に事務局にお任せでいいと思うが、このあと概要版なども作っていく時には、表紙のスタイルなども同じようなデザインになっていくということが想定される中で、やはりより多くの区民の方々が手に取って見たい、と思うような表紙のほうがいいのかなど。その意味では、渋谷区のものなどは非常にポップで楽しそうな雰囲気があるので、いいとは思いますが、渋谷区のものも私も携わらせていただいたのですが、タイトルにも書いてあるように、都市マスタープランではなく、まちづくりマスタープランで、要するに、どちらかという、人やプログラムに軸足があって、そこから空間に展開しているというような感じなので、恐らくこういう表現になっていると思います。したがって、今回の葛飾区の場合は、やはり空間も大事だと思うので、この渋谷区のポップな、こういうスタイルをベースにしながらも、もう少し空間の特色というか、こういう風景になっていくというところがもう少し表現されるといいのではないかと、という気がしました。

委員長：事務局から、ありますか。

事務局（課長）：まだ事務局もゼロベースなので、今のお話も踏まえて検討していきます。

委員長：それでは、副委員長、お願いします。

副委員長：今のご意見とほぼ同じだが、要は、葛飾区の場合は水害対応も含めて、これからどんどん空間が変わっていくということなので、こういう葛飾にしていくのだという意図が伝わるような表紙がいいかなというのが1点です。

もう1つは、今日の会議でも葛飾らしさという言葉が出てきていたが、多分、葛飾区に住んでいる人は、葛飾らしさは分かっていると思いますが、都内の人は「葛飾って千葉だっけ？」と言われる山の手の方もいらっしゃるくらいです。葛飾らしさというものがあまりクリアに出てない気もするから、そういう意味では、表紙には、区として外向けに葛飾らしさを示すような写真や絵をきちんと描いたほうがいいのではないかと、イメージが伝わるようにしたほうがいいのではないかと、という気がしました。

委員長：事務局、何かありますか。

事務局（課長）：今の副委員長のお話の、空間が変わっていくということが伝わるようにというところは、非常になるほどだと思いますので、その辺、少し工夫ができれば、やっていきたいと思っています。

また、葛飾らしさというところについては、区民から見た葛飾らしさ、また、外から見た葛飾らしさということも、今、区民アンケートや区外在住の方のアンケートなども採った中でも、やはり公園や緑地とか、緑が多い河川というところは大きいところで、区民、区外の方も共通としてあります

ので、そういうところも、「らしさ」というところで表現できればいいかなと思います。

委員長：それでは、委員、お願いします。

委員：方向性としては私も結構だと思うし、最終的には事務局にお任せというのも、私も合意します。

それで、今、副委員長からあったとおり、未来感だと思います。やはり未来のことなので、未来を描いたり、あるいは強調したいものをデフォルメ的描くには、イラストというのは非常に良い手法だと思います。したがって、イラストに関しては賛成だが、もう1つ、アイデアとして、ここにあるようなイラストなのか、最近の若い人たちに受けるということであると、アニメ風のものもあるのではないか、そういうほうがいいかもしれない、などと思いながら見ていたので、1つのアイデアとして申し上げました。ご検討いただければと思います。

委員長：事務局、いかがでしょうか。

事務局(課長)：アニメまでは思っていなかったですが、アニメも含めて、身近に感じられるような計画にしていくべきだと思いますので、そこも踏まえて検討させていただきます。

委員長：ほかにいかがでしょうか。

委員：この表紙だが、30年後の基本計画だったか基本構想だったかに、「水と緑豊かな」何とかの次に、確か「人情」と入っていたと思います。私は反対したのですが、この葛飾区特有の人情が分かるような表紙も面白いのではないかと思いました。こういうもので人情というのはほとんどないですし、葛飾区は人情があるのだよ、という表紙ができれば、もしかしたら面白いかなと思いました。

委員長：事務局、いかがでしょうか。

事務局(課長)：おっしゃるとおりで、都市マス自体、基本構想を実現していくというところがあります。都市マスの素案のp.28でも、「基本構想で謳う将来像『みんなでつくる、水と緑と人情が輝く暮らしやすいまち・葛飾』の実現に向け」ということで、都市マス自体はどちらかというところハード整備のほうを担う計画になるので、そこから、「みんなでつくる、水と緑豊かな、安全で快適に暮らし続けられる『かつしか』」ということで、都市マスのほうの基本理念を抽出しています。今おっしゃっていただいているとおり、人と人がつながる、コミュニケーションが非常に活発といったところは、やはり葛飾らしさというところの一面としてあると思いますので、表紙のデザインの中でも、そういうところが伝わるデザインを検討していければと考えています。

委員長：委員、何かありますか。

委員：柴又の景観うんぬんとの話がありましたが、私はずっと区民ですけれども、実際のところ、柴又で景観、と言えるようなものは少ないと思います。私は新柴又駅のほうに実家がありますが、そこなどは普通の住宅街で「なに？これがお国で認められた景観なの？」という感じになってしまっています。そうすると、柴又をうたうとすれば、実は帝釈様の門前町に入っていく所しかないのです。その入り口付近で写すか、奥の境内の寸前で写すかというところが、まさに景観であって、それから、今で言うと、土手に向かっていく道路が大きくありますが、あそこの辺りまでです。だから、難しいな、どういう写真を使うのだと。柴又で使うのは、もう、1点だけじゃないでしょうか。ほかは使えないところがないと思います。

それから、先ほど言っていたように、人情とよく言われますが、「人情って何ですか」と言うくらい。町会などをやっているとおせつかいを焼くことが人情に入るのか、要するに、困っている人がいれば救いの手を出すというのが、ほかの所は分からないので、葛飾はそういうのがあるのかな、昔から先祖がつくってくれたものを、我々が今受け継いで、それをやれているのかなと思っています。

それをこの中に落とせというのは大変難しい。

私は、この p. 28 をもう少しきれいにしていただいで表紙にするか、前回のこれも良かった。前のものは、写真は七曲りの所でいいが、暗い。バランス的に、色がすかっとしていない色ではなくて、緑なのか何なのかよく分からない色を使ったりしています。葛飾区というのは明るいまちなので明るくしてほしい。ぜひ、そういうレベルで考えていただきたいです。

委員長：事務局、何かありますか。

事務局（課長）：今、委員からは、p. 28 の絵をもう少しきれいにすればというご意見も頂きました。その中で、先ほどの人情や、人に対するおせっかい、困っている人に手を差し伸べるといような雰囲気、気が表紙の絵の中で伝わるものもあるのかなと、また少しイメージが湧いてきたところです。

委員長：確かに人情を何か形に表すのは難しいと思います。しかし、葛飾区の良さはそういうところにあるということは皆さん折々に感じることであります。それをイラストなり何かにするのは難しいことではあるだろうけれども、チャレンジして表現してもらえたらいいかなと思います。

議論としては、大体よろしいでしょうか。

事務局：副委員長が手を挙げられています。

委員長：副委員長、お願いします。

副委員長：一言だけ。先ほど委員からの新小岩のスタジアムの話は、「ああ、そうなのだ」と思って聞いていました。この都市計画マスタープランはどういうものかなと考えると、まだ未来の話で不確定なことについても、ある一定の方向性が伝わるようなものにすべきかな、という気がします。それで、前のマスタープランの時代を振り返ってみると、それから現在に至るまでに、中川沿いの森永工場跡地、あと、今回のこの私学共済のグラウンドのような所もそうかもしれないですが、恐らく土地利用の転換、中規模、小規模なものも含めれば、あの辺が変わりそうだというのは、多分マスタープランを作る段階である程度、目途がついているような気がします。そのときに、地権者がいる話ではありますが、取りあえず区民の総意として、こんな方向にはしてはいけないとか、こんな方向であってほしいということは、あらかじめ、ある程度方向づけをしておいたほうがいいという気がします。やれることを書いていくという行政計画的な意味合いもありますが、志とか理想とか、まちの大きな変化が、まだ葛飾の場合はありますので、時代を少し先取りして書いていくということ、もう少し強めてもよかったかなという感じがしました。かなり大変だと思いますが、以上です。

委員長：時代を先取りして書いていくという、まさに難しい課題ではありますが、これまでも一生懸命書いてきてはいるということだろうと思います。先ほども委員からご指摘のあったスタジアムの話、そういうところは今回ぎりぎり間に合うような感じになるでしょうが、マスタープランの中に位置付けをしていくということが、今、副委員長が言われたような、できる限り具体的に時代を先取りしていくということにもつながるのではないかと思います。

そういうことで、本日は閉めさせていただきます。よろしいでしょうか。

それでは、今日の内容や、東京都、区全部局への意見照会の結果などを踏まえて、次回までに事務局で調整していただき、次回はパブリックコメントに向けた都市マスタープラン案を取りまとめていきたいと思っています。本日は以上となります。

ここで、傍聴の方々にはご退出をお願いします。今日は傍聴に来ていただき、お礼申し上げます。

(2) その他

委員長：それでは最後に、事務局から連絡事項等があればお願いします。

事務局（課長）：皆さま、本日も長時間にわたり、ありがとうございました。

次回の策定委員会の日程は、4月後半から5月頃に開催したいと考えています。後日、改めて正式な通知をお送りいたします。

委員長：本日の議事は全て終了しました。以上で、本日の策定委員会を閉会いたします。皆さん、どうもありがとうございました。

以上